2024 年度

SGT　活動レポート

農業体験講座
第7回　棚田ツアー

10 月 25 日（土）に第 7 回農業体験講座を、静岡市清沢地区にある棚田で実施しました。今回は中学生 2 名、高校生 11 名の計 13 名が参加しました。天気は朝から曇りがちで雨が心配されましたが、本降りにはならず、時折小雨がぱらつく程度で、無事に活動を行うことができました。棚田では稲刈り作業が終盤を迎えており、黄金色に実った稲穂が風に揺れる中、収穫もあと一歩という時期でした。気温はかなり低くなっていましたが、田んぼにはカエルやバッタなど多くの生き物が見られ、秋の棚田の豊かな自然を感じることができました。

当初は脱穀作業を予定していましたが、前日までの雨の影響で稲を十分に乾燥させることができなかったため、急きょ作業内容を変更し、稲刈りを行うことになりました。作業開始前には塾長から稲の刈り方や安全に作業するための注意点などについて説明を受け、生徒たちは 3 つの班に分かれて作業を開始しました。

第 1 班は棚田の最も下の段にある「旭米」の稲刈りを担当しました。生徒たちは自分たちで役割を分担し、稲を刈る人と運ぶ人に分かれて効率的に作業を進めていました。チームワークがよく、教室の半分ほどの広さの田の稲をあっという間に刈り終える姿が印象的でした。

第 2 班は棚田の上段にある「緑米」の稲刈りを行いました。刈り取った稲を片手に束ね、縄で縛る作業に挑戦しました。初めのうちは小さな束を作るのが精いっぱいでしたが、次第にコツをつかみ、最終的には現地の方と同じくらいの大きな稲束を作れるようになりました。刈る際にも稲の長さがそろうように、成長の違いを見極めながら丁寧に鎌を入れる工夫が見られました。

第 3 班は刈り取った稲を干すための「稲架（はざ）」を立てる作業を行いました。稲架掛けとは、束ねた稲を稲架木にかけ、太陽と風の力で乾燥させる工程です。天日干しによってお米のうまみが増し、割れ粒が減り、長期保存にも適するようになるといわれています。生徒たちはハンマーを使い、どれだけ多くの稲束をかけても倒れないように工夫しながら、しっかりと稲架木を打ち込んでいました。

作業の終盤、お昼前には雨脚がやや強まりましたが、ちょうどその頃に昼食の時間となりました。現地の方が用意してくださった温かい豚汁をいただき、冷えた体を温めながら地域の方と交流する時間を持つことができました。秋の棚田での作業は大変でしたが、生徒たちはそれぞれに自然と向き合い、仲間と協力して作業を進めることで、農業の奥深さや地域の方々の知恵に触れる貴重な体験となりました。

第 1 班　稲刈りの様子

第 2 班　稲刈り完了の様子

第 3 班　稲架木を打ち込む様子

その他（活動の様子）